

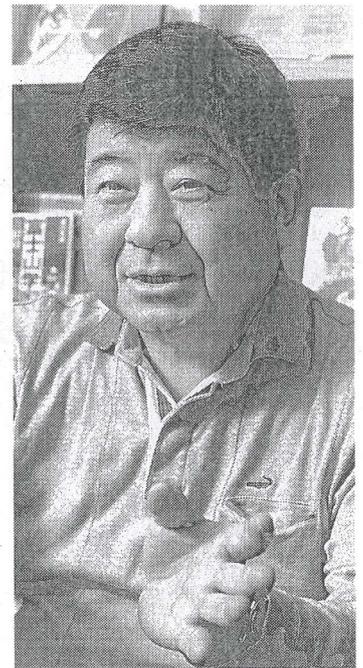
わたなべ 豊博さん
渡辺 豊博さん

都留文科大学教授



身長183^{センチ}、体重107^{キログラム}の巨体で渡辺豊博教授(63)は三島(静岡県)のジャンボさんの愛称で親しまれている。静岡県庁在職時代から行政と市民運動との連携に力を注ぎ、富士山の湧水が巡る水の都、ふるさと三島の水辺の環境改善に取り組んで源兵衛川を再生、またNPO法人「富士山クラブ」を立ち上げ

「富士山クラブ」を立ち上げ、バイオトイレを導入した。これまでに9つのNPOの事務局長をやってきました。現在の中核は、NPO法人グラウンドワーク三島での環境改善活動ですが、ほかにも三島ゆうすい会、NPO法人富士山測候所(富士山頂上での高所研究)を活用する会、NPO法人富士山エコネット(環境・登山教育)などがあります。



どの組織も重要な問題を抱えています。私にとっていま勝負どころにさしかかっていると考えているのが、世界文化遺産になった

評価されるのか議論の推移を高揚心を持って見ていました。2004年に中国の蘇州で開かれた世界遺産委員会も訪れまし

環境改善、企業・行政・市民・NPOが連携

世界遺産認定、課題山積で逆に危機感

乱開発防止へ90年代からキャンペーン

富士山の諸問題です。昨年6月22日には、国連教育科学文化機関(ユネスコ)の世界遺産委員会で富士山が世界文化遺産に登録された、カンボジアのプノンペンに会場にいました。日本人で市民としては私と数人だけ。ほかは役人や報道関係者だけ。これまで深く関わってきた当事者として、富士山が世界からどのように

た。登録された地域は2〜3年後にイコモス(国際記念物遺跡会議)から警告された宿題(課題)を報告しなければなりません。治安の悪化「環境の悪化」などにより、「世界遺産」から「危機遺産」に格下げされる厳しい現状を自覚しました。「ひよっとしたら富士山は危ないかも」と心配しました。プレゼンテーションは20分、そのうち5分は称賛でしたが、あとの15分は宿題の指摘でした。具体的には、信仰と芸術への評価から①巡礼などの宗教的側面から昔の登山道をはっきりせよ②来訪者計画(どれくらいの人数が適正なのか)③安全対策④地震などへの危機対策⑤景観の整備(開発の抑止)――などでした。恥ずかしい現場の写真が映し出され、闇の中をジグザグに登っていく姿に「とんでもない」という声もあがりました。私からすれば「恥のプレゼン」でした。これは「厳しい

そうでなければ登録延期など「危機遺産」として逆に負の登録になりかねないことを懸念しました。現在は都留文科大学で「富士山学」「地域環境計画」を教え、グラウンドワーク三島の専務理事として「企業、行政、市民、NPO」のパートナーシップによる地域振興の要となっている。県庁時代からゴミ問題などに取り組んでいたのが、規制というか抑止をかけるための一番のセーフティーネットが「世界遺産」ではないかと考えたのです。富士山の価値を評価してもらうとともに、世界遺産に登録されることによって乱開発を防止できるきっかけになるのではと。それが92年です。静岡、山梨の新聞社、市民団体と連携して富士山の世界遺産登録のキャンペーンをまとめ役として仕掛けました。94年、3カ月で246万もの署名が集まり驚きました。結局、産業廃棄物問題やし尿問題で03年、国が申請を断念するという事態になりました。しばらく試行錯誤の時を過ごしました。この間に、富士山クラブを立ち上げ、富士山頂へのバイオトイレの設置などに奔走しました。そして05年にNPO法人「富士山を世界文化遺産にする国民会議」がスタート。2年ほどアドバイザーとして頑張りました。(聞き手は編集委員 工藤憲雄)

富士と共に生きていく

①

「保全状況報告書」として先の宿題を克服し、だれにも認められるような解決策を提示できるのか。